

厚生労働科学研究費補助金（健やか次世代育成総合研究事業）
（分担）研究報告書

医学的適応による生殖機能維持の支援と普及に向けた総合的研究
「AIDに関する海外の制度や取り組みに関する調査」

研究分担者：浜谷 敏生 慶応義塾大学病院 専任講師

A. 研究目的

AIDに関する海外の制度や取り組みに関する調査を行い、今後のわが国における体制作りの礎とする。海外における提供精子を用いた人工授精、特にドナー精子バンクのあり方に関する現況に基づき、本邦における第三者配偶子を用いた生殖医療のあり方について提言を行うことができる。

B. 研究方法

本邦では提供配偶子を用いた生殖医療の基盤整備が遅れ、患者は海外への医療ツーリズムを余儀なくされている。また民法特例法案の附則三条に則り「出自を知る権利」への対応も喫緊の課題である。匿名提供の維持の可能性、非匿名提供へ移行する場合の問題点、出自を知る権利の尊重とドナー個人情報の開示の方法、それに必要なカウンセリング等の体制、児とドナーの不満点、ドナーリングなどについて、海外各国の現況を調査する。さらに、公的あるいは民間精子バンクの役割と運営方法（ドナーのリクルート、感染症や遺伝子の検査、同じドナーからの妊娠数の管理、ドナー情報の永年追跡など）についても調査する。提供配偶子を用いた生殖医療のあり方についての提言を纏め、少子化対策に寄与したい。

C. 研究結果

本邦では 2020 年 12 月に成立した民法特例分担研究報告書番号 - 6 - 法案の附則三条に則り、「精子、卵子又は胚の提供の規制に関するあり方」や「出自を知る権利」への対応が喫緊の課題である。匿名・非匿名提供の問題点、出自を知る権利の尊重とドナー個人情報の開示、それに必要なカウンセリング等の体制、児とドナーから見た問題点などについて、海外各国の現況を調査し、日本産科婦人科学会「精子・卵子・胚の提供等による生殖補助医療制度の整備に関する提案書」の策定に寄与した。

D. 考察

海外の実情の調査により出自を知る権利とドナーの個人情報の守秘との間のバランスをどのように取るのか、社会や文化的背景により国ごとに異なり、また経時的にも対応が変化していることがわかった。この結果に基づき、わが国における提言策定につなげた。

E. 結論

匿名・非匿名提供の問題点、出自を知る権利の尊重とドナー個人情報の開示、それに必要なカウンセリング等の体制、児とドナーから見た問題点などについて、海外各国の現況を調査し、日本産科婦人科学会「精子・卵子・胚の提供等による生殖補助医療制度の整備に関する提案書」の策定に寄与した。

G. 研究発表

[論文]

1. 吉政佑之、浜谷敏生、山田満稔、他. GID 症例における提供精子を用いた人工授精の成績. GID (性同一性障害) 学会雑誌 2022 14 巻 121-128
2. 上條慎太郎、宇津野宏樹、浜谷敏生. 精液凍結保存を行うにあたっての患者説明. 臨床婦人科産科 2021 75 巻 4 号 183-186
3. 山上亘、浜谷敏生、青木大輔、他. 【不妊・不育症女性の合併症・併存疾患をどう扱う?】 婦人科悪性腫瘍 産婦人科の実際 2021. 69 巻 13 号 1645-1651
4. 吉政佑之、浜谷敏生、田中守. 【特集／最新の不妊症診療がわかる!】精子提供と提供精子の需給、子供の出自を知る権利. 臨床婦人科産科 2022 増刊号 76 巻 4